

月刊 monthly DAY

VOL. 193
1 2016
月号

新企画&現場で役立つ
レク情報など満載!

〈特集〉

加算取得&利用者の「できる」が増える!!

活動・参加がグ〜ンとアップ!! 具体的トレーニングと 環境の工夫 第2弾



好評連載

中・重度の方も楽しめ
社会性を維持できるプログラム

介護職員向け
デイでの医療的ケア知識

別売 1月号
対応版

お役立ち
ツールCD

定価600円
(+税、送料別) 発売中

創作人形 / 石井美千子
(タイトル: わんぼく)

人間だもの

第10回 「ボケ」た家族の愛し方

親が何度も同じことを言い出したら子どもは「ついにボケたかな？ 医者に連れて行かないと」と思うでしょう。しかし親にはプライドがあるので、そう簡単には病院に行ってくれません。受診までに平均2年ものブランクがあるそうです。その間、子どもは子どもなりに悶々として過ごします。「どうやって病院へ連れて行こうか。介護施設を考えておかないと。でも費用はいくらかかるのかな」などなど。今、50代、60代の同窓会ではどこも、親の認知症介護の話題でもちきりです。

仕事と介護が果たして両立するのか。大変悩ましい選択でしょう。ショートステイと在宅が半々でもいい。施設に入所しても週に一度くらい自宅に逆ショートできればいい…。いろんなオプションがあるでしょう。しかし決して二者択一ではなく、住み慣れた地域で行ったり来たりできることが地域包括ケアです。そしてもし叶うならば年に一度でも旅行ができれば、いい親孝行になります。旅行に出掛けるといい意味での取り繕いが生まれて、家族も驚くほどしっかりとした行動をとられます。

西宮市のNPO法人つどい場さくらちゃんの丸尾多重子さんは、要介護5の認知症の人を引き連れて北海道や沖縄に2泊3日の旅行を続けておられます。先日は、なんと台湾ま

で30数人で旅行され、みなさん普段とは全く違う笑顔が見られました。人間は旅行をすることで、移動が大切であると教えられます。

そんな丸尾さんが書かれた家族介護のコツの本が出版されました。「心がすっと軽くなるボケた家族の愛し方」(高橋書店)という漫画主体の本で、私が監修をしています。認知症の家族介護についてはまだまだ誤解が多く、今後の大きな課題であると思います。みなさまの参考になれば幸いです。

〈長尾和宏氏の著書〉



その医者の
かかり方は損です
青春出版 1,188円(税込)



高齢者の望む平穏死を
支える医療と看護
メディカ出版 1,944円(税込)



長尾クリニック院長
長尾 和宏 ながお かずひろ

1984年東京医科大学卒業、大阪大学第二内科入局、1995年兵庫県尼崎市で開業、外来診療と在宅医療に従事
日本ホスピス在宅研究会理事、日本慢性期医療協会理事、日本尊厳死協会副理事長、関西国際大学客員教授、東京医科大学客員教授(高齢総合診療科)、「病院でも家でも満足して大往生する101のコツ」など著書多数